

○再整備・再配置の方向性

豊岡第一地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。 ※地区センターに移行しない施設は地区での意見交換を踏まえて活用方法を検討する。	1 扇町屋公民館を活用する案	【メリット】 ・防災拠点としての配置を考慮すると、小・中学校との配置バランスが良い。 【デメリット】 ・自動車でのアクセスが増えることが想定されるが、周辺道路の幅員が狭い。 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		2 久保稲荷公民館を活用する案	【メリット】 ・小中学校が近くに位置するため、学校との連携が図りやすい。 【デメリット】 ・一部が借地であるため、土地の購入を検討する必要がある。 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・対象エリアが変わらないため、最寄り施設までの距離や時間が維持できる。 【デメリット】 ・2館を存続させた場合、1館分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・地域の拠点施設として、機能を充実させることができない。 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。	

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 扇小学校を活用する案	【メリット】 ・継続して活用するため、安定して運営することができる。 【デメリット】 ・他の施設を複合化する場合、敷地拡張が難しい。
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図る。	1 扇・扇第二学童保育室を扇小学校に複合化する案	【メリット】 ・複合化することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 向原中学校を活用する案	【メリット】 ・継続して活用するため、安定して運営することができる。 【デメリット】 ・他の施設を複合化する場合、敷地拡張が難しい。
保育所	施設が老朽化しているため、豊岡地区内の3つの保育所（豊岡・黒須・高倉）を統合して、新たに施設を整備する。	1 既存施設がある土地を活用する案	【メリット】 ・市の所有地の場合、新たな用地取得が不要である。 【デメリット】 ・工事期間中、施設の休止や代替施設が必要である。
		2 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後、移転ができるため業務の休止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・施設の選択が残ることとなる。 ・現在の定数が維持できる。 【デメリット】 ・3園を存続させた場合、1園分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。	
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
扇台福祉作業所	長寿命化を図る。